

今後、注目されるTOEICとTOEFL

新大学入試制度の中で1つ注目されている点があります。それは、語学資格の活用です。英語の資格と聞くと、多くの方は英検が思いつくのではないのでしょうか。ところが、今回の新大学入試制度では、英検だけではなく、異なる資格の活用も挙げられています。

中央教育審議会で、「英語は『読む・聞く・書く・話す』という4技能を評価する」という方針を明らかにしています。現在の大学入試では『読む・聞く』の2技能に偏っており、このことが日本人が英語を習得できない要因の一つとする指摘が多いです。そのため、学力評価テストの英語について「『書く・話す』も含めた英語力をバランスよく評価する」という考えを明示しています。

英検は、1次試験で『読む・聞く』の技能、2次試験の面接で『話す』の技能が評価されるのですが、記述の問題がないため『書く』の技能が評価できません。また、級ごとで合格・不合格を出すため、例えば同じ2級をもっている人どうしの英語の能力の違いを測ることができません。そこで、注目されているのが「4技能を評価できるテスト」と「級ではなく「スコア」で英語力を評価するテスト」です。現在ある英語の資格試験の中で、この2点を満たしているのが、TOEIC（トイック）とTOEFL（トフル）とよばれるテストです。

仕事で英語を使っている方はTOEICはご存じだと思います。TOEICはビジネス向けの英語資格として有名です。また、TOEFLは、英語留学をするときに、英語力を示すための資格として使われます。しかし、この2つの資格は知らない方が圧倒的に多いと思いますので、この2つの資格試験に関して説明したいと思います。

① TOEIC について

■ 200問を2時間で解く、過酷なテスト

リスニング（聞き取り）セクション【100問・約45分】とリーディング（読み取り）セクション【100問・約75分】から成り、合計200問を約2時間で解答します。非常に集中力を要するテストです。また、世間一般で言われているTOEICは、この聞き取りと読み取りのテストのことで、別にTOEIC SW という、スピーキング（話す）とライティング（書く）のテストもあります。

■ 結果は合否ではなくスコア

テスト結果は合格・不合格ではなく、スコア（得点）で示されます。英検とは異なり、初級者も上級者も全員が同じテストを受けます。各セクション495点満点、合計990点満点になります。

■ ビジネスシーンが中心の内容

テストの英語はビジネスシーンや日常生活を題材にしたものが多く、ビジネスで使う語彙や表現が数多く登場します。

本来、TOEICは高校生よりも、就職活動がある大学生や社会人が受けることが多いです。例えば、企業が採用時にTOEICのスコアを参考にすることがあります。それがだいたい570～600点くらいです。また、グローバル化している企業の国際部門では700点以上のスコアが期待されています。ビジネス的な内容が多いため、普通の学校の勉強では出てこないような単語も出てくるので、TOEIC用の勉強をしないと高いスコアを取るのには難しいです。

最近、上位の高校や中高一貫校では、TOEICもしくは、TOEIC Bridge と呼ばれる中高生向けのものを受けさせる場合があります。英語に興味がある子は英検以外にもこのようなテストを受けてみるのはいかがでしょうか？

② TOEFL について

■ 試験時間はなんと4時間！

問題は、リーディング（読み）、リスニング（聞く）、スピーキング（話す）、ライティング（書き）の4部構成。試験時間はなんと4時間にもなります。

■ 試験方法が独特

解答の仕方が独特で、ヘッドホンを着用してパソコンで解答していきます。スピーキングでは、質問に対しての答えをマイクに吹き込んで解答したり、ライティングでは、筆記するのではなく、タイピングで打ち込むで解答します。

■ 結果は合否ではなくスコア

テスト結果は合格・不合格ではなく、スコア（得点）で示されます。こちら初級者と上級者全員が同じテストを受けます。計120点満点になります。

■ 学術的なものや大学内の会話などが内容

TOEFLが留学生などを想定しているため、大学内の授業である学術的なものや、大学内の会話のような内容のテストになります。

今後は、このようなテストを受ける高校生が増えてきます。アップステーションでは、新年度から資格試験対策や面接対策などの授業の申込ができるようになります。是非、ご活用して頂きたいと思います。

アップステーション

2015年
2月18日号

東京・山手区・有明地区